第９回　箱崎キャンパス跡地利用協議会　議事要旨

開催日時：平成 28 年 10 月 20 日（木）　　9：30～11：00
場所：九州大学箱崎キャンパス　旧工学部本館 3 階第 1 会議室

会議次第

１．開会
２．報告内容（第 9 回）について
３．協議内容（第 9 回）について
４．その他
５．閉会

配布資料

（配布資料）
【資料1】委員等名簿
【資料2】作業部会　委員名簿
【資料3】報告資料（第 9 回）
【資料4】協議資料（第 9 回）

議事要旨

１．委員の出欠状況について
● 福岡県建築都市部都市計画課酒井課長が代理出席。 ● 福岡市住宅都市局田梅理事が代理出席。 ● 東京大学出口副委員長が欠席。 ● 九州大学塚原委員が欠席。 ● 福岡大学辰巳委員が欠席。
２．作業部会委員名簿について
● 事務局より【資料２】作業部会委員名簿について説明。
３．報告内容について
● 事務局より【資料３】報告資料（第９回）について説明。
４．協議内容について
● 事務局より【資料４】協議資料（第９回）について説明。

■質疑及び意見交換要旨	
□報告資料について	
事務局	● 本日欠席の委員より事前にいただいたご意見を紹介する。 ● 現在の貝塚公園は周辺住民のみでなく広域からの利用も多く駐車場も比較的利用されている。今後、公園の検討を進めるに当たり、どちらかの公園に

	は広域的な利用者も考慮しつつ、安全面にも配慮しながら、駐車場を整備すべきである。例えば、北側の公園であれば、公園利用者の駐車場と貝塚駅利用者の駐車場を一体的に整備しパークアンドライドにも対応できるようにすると良い。
委員長	● 公園・中学校の配置や、北エリア・南エリアの事業主体・手法、土地処分スケジュールの見直し、「FUKUOKA Smart EAST」、石積み遺構の発見について事務局より報告があった。 ● 特に、事業手法・主体について、北エリアは福岡市施行の土地区画整理事業を実施し、南エリアは九州大学・ＵＲで開発を行うこととしている。また、土地処分スケジュールの見直しについては、今年度末のガイドライン策定を受け、都市計画を変更した上で公募を行うということであった。
委員	● 元寇防塁については、今後、追加調査を実施して規模・構造を明らかにしていくということだが、将来的に公園として残すことを考えていただきたい。
事務局	● まちづくりに生かせるように対応していきたい。
□協議資料（まちづくりマネジメント部会検討資料）について	
委員長	● Ｐ1-4、まちづくりマネジメント組織は跡地利用協議会の発展的なもので、多くの方が関わった中でマネジメントを行っていくという考え方であるが、そのあたりについて意見はないか。
委員	● 資料では、今後参画する企業の関わりについての記載が十分でないように感じるが、住民と企業はどのように関わり合い、どのようにマネジメントを行っていくのか。
事務局	● 「みなとみらい２１」は、企業主体でまちづくりがなされ、開発が進む中で、地域の魅力を向上させるため、持続可能なマネジメントを行っている。 ● 箱崎においては、どれくらいの住民が住み、どのような企業が進出してくるのかを詰めなければならないが、住民や企業、周辺地域の方々がいるという状況で、連携したマネジメント活動について検討することが重要だと考えている。
委員	● マネジメント活動にあたっては、事務処理や活動の拠点となる場所が必要だろう。現在のキャンパスは東箱崎校区であるが、東箱崎公民館から距離があり、公民館で活動を行うことは難しいと思われる。跡地や周辺地域も活用可能な集会所をここに準備する必要があるのではないか。
事務局	● マネジメント活動には、人材、資金が必要であるが、活動の拠点も必要。城野であればＴＥＴＴＥという集会施設、柏の葉であればＵＤＣＫが拠点となっている。そうした事例を参考にしながら、人材、資金、場所の確保という観点から検討を進めていきたい。
委員	● Ｐ1-4左図、財源の記載に関して、まちづくり組織では負担金・共益費等、外側に町内会費・福岡市補助金と記載してあるが、マネジメント部会の議論では事業による収益も重要だという指摘があった。ここに反映されていないようだが、何か具体的な考えはあるのか。
事務局	● 部会資料をそのまま掲載していることから収益事業の視点を記載していないが、部会においても意見を頂いているように、持続可能なマネジメント活動のためには収益事業も必要であると考えており、公共的な空間の活用により収益を安定して生み出す仕組みを考えていかなければならない。
□協議資料（まちづくりルール部会検討資料）について	

委員長	● ルール部会では、提出された検討資料だけで具体的なイメージが掴みにくいという意見があったことから、事務局が資料を追加して説明している。
委員	● 資料は戻るが、箱崎中学校の配置について発言したい。私自身の長い教員生活において、敷地が不整形な学校は活動しづらかったという経験もあり、そうした点から不整形な敷地となる案１に難色を示したこともあった。しかし、公共施設を先に決めることによりエリア全体を描きやすいという観点を優先し、今回案１に決めたことについては賛成している。
委員長	● 不整形であるという意見については工夫の余地があると思うが、事務局いかがか。
事務局	● 案１は道路に挟まれて不整形ではないかという意見であったが、教育委員会と協議しながら検討を進めており問題なく計画できると確認している。 ● また、公共施設の場所を決めることでルールづくりなどが考えやすいとのご意見や、防災の観点から公園・中学校等のオープンスペースは連携できる配置であるべきだという意見もあった。そこで、南エリアの公園は中学校の近くに配置するということを決めている。
委員	● Ｐ2-3、箱崎の既成市街地から入る南北道路の起点となるところについてもイメージとして、シンボル空間・エントランス空間の考え方が必要なのではないか。
事務局	● キャンパス内で歩の軸を記載し、近代建築物活用ゾーンからシンボル空間、貝塚駅、キャンパスの北側を大きく書いているが、箱崎の既成市街地、箱崎駅からの流れも重要なルートとなることから、そういった視点も踏まえて考えていきたい。
委員	● 今の意見と同様で、南北道路は自動車が中心であると思うが、その延長となる箱崎の既存商店街との接続箇所は現状では狭くなっている。長期的な視点でも良いので、この部分をスムーズに跡地とつながるように整備し、九大跡地だけでなく周辺地域の繁栄も考慮することでこのプロジェクトがより良いものになる。
事務局	● 箱崎駅からの流れを重視するだけでなく、既成市街地、商店街、歴史ある筥崎宮からの人の流れを取り込みつつ、跡地からも流し込んでいくことは非常に重要である。 ● また、エントランス空間として箱崎九大前駅もあり、エリア内を通って貝塚駅まで行く軸を考えることも重要だと認識している。
委員	● 資料Ｐ2-5、キーワードとイメージについて確認をしたい。ベースとしてゾーンがある。ゾーンとゾーンを結び付けるものが軸。ゾーンの上に機能が乗る。機能がスマートという理解でよいか。 ● 軸の中では、歩（あゆみ）の軸、つまり歩行者が重要とのこと。歩の軸とは、都会で川を暗渠化してその上を歩行者が通行できる遊歩道のようなものであろう。今までは、むしろ、自動車道路が優先的に決まっているような印象を受ける。歩行者が優先の街ならば、歩の軸のルートについて優先的に議論する必要があろう。
事務局	● ゾーンに単一的な機能が張り付くイメージではなく、色々な機能が融合するという意味で平面的にも立体的にも折り重なった表現をしている。そういったものを軸でつなげて、歩行者の回遊性を確保していくというイメージである。 ● 自動車と歩行者については、生活を支える自動車の流れも必要。大街区を活用し、外から自動車でアプローチできるものの、中は人を中心として、自転車、様々なモビリティも想定しているが、歩行者の流れを分断しない

	ようにしていくことが重要と考えている。
委員	● 九大生とハーバード大学で行われている提案では、箱崎の歴史も考えていると思うが、11月11日開催のフォーラムでの発表は、今まで私たちが考えられるゾーンと違う考えが出るかもしれない。どのようにお考えか。
委員長	● 先月ハーバード大学から13人の学生が来て、九大生の13人とペアを組み、11通りのアイデアを出してもらっているが、協議会で検討している内容がベースになっている。１か月前にもテキサスＡ＆M大学と中国文化大学から学生がやってきて作業をしている。それぞれ１週間程度の作業なので、これまでの協議会での議論をベースとしてシミュレーションをした。 ● 現在、ハーバード大学では、授業の中でさらに内容をブラッシュアップしており、11月11日は中間発表になる。12月にさらに修正した内容をボストンで発表する予定である。 ● これまでの議論を反映してもらいながら検討しているので、大きく異なる考え方にはならないだろう。
事務局	● 箱崎の既成市街地の関係で補足をさせてもらう。Ｐ2-2、骨格の形成イメージを示している。歩の軸を中心に説明したが、周辺の筥崎宮、箱崎駅、商店街方面からの人の流れを考えるという大きな視点で、人を呼び込みやすくする工夫を検討していく。
委員	● Ｐ2-3ではエントランス空間が２つ、シンボル空間が跡地の中心にあるが、近代建築物活用ゾーンもシンボル空間的な位置づけなのか。他の方もこの辺りで何も位置づけがないことに寂しい感じがしているのではないか。
事務局	● 近代建築物活用ゾーンは、言葉の使い方は異なるかもしれないが、前面に位置する公園と合わせシンボル的な空間とする方向であり、あわせて、跡地の中心部にも駅前にもシンボル空間が必要だと考えている。
委員	● 新しく整備する交差点の部分をシンボル空間と呼んでいるのだろうが、跡地全体で考えると、残す建物のある所がシンボル的空間になるだろうし、中学校と公園が資料にはまだ記載されていないが、この２つは肝になるものなので、記載した方がよりイメージしやすくなる。
事務局	● ８月下旬に開催したルール部会の資料であり、その時はまだ公園と中学校が定まっていなかった。今後決まった内容を落とし込んで、具体的に検討を進めていきたい。
□協議資料（歴史と緑の継承部会検討資料）について	
委員長	● 樹木に関しては専門のコンサルタントと農学部の先生の検討を踏まえた内容になっている。近代建築物については市原先生がミュージアムにタイルを寄贈したこと、記録保存の候補を挙げて検討しているという内容であった。
委員	● 樹木について、仮植費用を誰が負担するかについて曖昧な記述になっていると思う。事業者が負担するのであれば、Ａ案でもＢ案でも費用は買主の側になる。樹木を残したいのは売主であり、その費用を買主に負担してもらうのは酷ではないか。
事務局	● 基本的にＡ案については売主で負担して仮植すると考えている。いかに樹木を残せるかがポイントだと考えており部会で検討を進めている。
□その他	
委員	● ハード面について主に議論されているが、新しいまちづくりでは人が大事。新しいまちを構成する人が一番参画しやすいものはお祭りや運動会などの

	イベントだ。それぞれ地域に根差したイベントがあるかもしれないが、筥崎宮が近くにあって、玉取祭（玉せせり）やお汐井取りの文化もあるので、そういったものと連動させた祭りを最初から想定して、それができるような公園やまちのしつらえを整備し、住民・公共・企業といった誰もが等しく参画できるような祭り・イベントから新しい土地の雰囲気をつくっていくと良い。
委員	● 福岡市のまちづくりについて、アイランドシティを含めた「FUKUOKA Smart EAST」の考え方の中で箱崎地区がどういう役割を果たすのか、まだ頭の整理ができていないが、今議論していることはこれからの住民にとって快適なまちづくりをしていこうということで大事である。 ● 例えば、この地域の魅力を上げることで、住みたい人をどれだけ引っ張ってこられるか。研究開発の言葉も出てきているので、アクセスが良いことを活かして企業を引っ張ってくることも魅力を上げることになるし、建築物等価値のあるものを活かして、住民以外の人に楽しんでもらう、散策の中で心癒される時間を使ってもらうことも魅力を上げることになる。人の流れの部分が、今後の議論の中にどのように出てくるのかまだ見えてこない。
委員長	● ご指摘の点が11月11日開催のフォーラムの柱になればと良いと考えている。ライフスタイルはどのようになるのか、「FUKUOKA Smart EAST」における新しい技術・イノベーションがどのように組み込まれるのか、住民、周辺の住民、企業にとって快適で未来型のものになり得るのかどうかが問われている。アイランドシティも含めて箱崎が、次の社会を占う場所になると良いが、こういった話を同時にしていく必要がある。
委員	● 今の話に関連して、これまでどのような企業・業種を呼び込むか議論されていなかった。今後、どういう業種、研究機関を呼び込むかについてもう一つ部会を作って議論していくべきではないか。これまで漠然としていたので具体的な話に入っていけていないが、例えば科学に強い街であるとか、何らかの分野に強い街であるとかコンセプトを作って、こちらから企業等を選択できるような立場を作っていきたい。
事務局	● 新しい先進的なまちづくりという意味で、今度のフォーラムでの意見や、これまでの議論も融合させながら、目指すべきまちについてしっかり検討していきたい。検討の進め方については委員長とも相談していく。
委員長	● ようやく企業にイメージとして伝えていく素材が揃いつつあるので、こちらから仕掛けていくことは非常に大事なことだ。
委員	● 少し議論と外れるが、このプロジェクトは世界に発信していくものになる。世界から見たときに、関わっている方々であるとか、今度のフォーラムの参加者の多様性がとても気になる。特にジェンダーの視点からいくと、この委員会は女性が少ない。フォーラムについても森先生以外、全て男性。例えば九大の教職員や学生が入ってくれると多様性も高まるだろうが、そういう視点もどこかに忘れずに入れておきたい。
委員	● Ｐ3南エリアの公募のスケジュールについては、これまで都市計画の変更をする場合、しない場合とあったが、都市計画変更後の平成３１年度に公募を開始するということで明記されている。福岡県の都市計画の立場から言うと、超高齢社会の中で、色々な都市機能に対して公共交通でアクセスできる環境を作っていかなければならない。冒頭の意見において、貝塚公園が広域利用されていることを踏まえ、利用の手法などを提案されていたが、これから11月開催のフォーラムにおいてもモビリティについて議論がなされるようなので注視していきたい。

委員	● 新しいまちが快適で、発展・進化していくまちとしてアピールしていくためには、住民・企業が一緒になって地域をマネジメントしていく組織がしっかりと、財源を持ち自立して組み立てられていくことが大切だ。 ● 「FUKUOKA Smart EAST」の話もあり、新しい技術を皆が使いこなせるような未来型の都市になれば良い。大いに期待したい。 ● また、周辺の既成市街地と共存共栄し一緒に発展していくことが重要である。
委員	● まちづくりマネジメント部会では、いかにマネジメント組織を元気に継続していくかを議論することがポイント。マネジメント組織が活躍できる場として公共空間の整備をセットとして考えていく必要がある。まちづくりルール部会で議論していくテーマにもなるので、お互いの部会で連携して議論を深めていけば良いものになるのだろう。マネジメント組織・公共空間が箱崎らしさ・売りになる一番の肝になるのではないか。 ● 全体の感想としてはよく研究されて着実に検討が進んでいるという印象である。
委員	● これまでの跡地利用協議会の議論を始め様々な意見をまとめる形で、まちの骨格づくり、中学校・公園、基盤整備手法などを決める段階まで来たと思う。まずはまちの骨格づくりを、九州大学、ＵＲ、福岡市の３者で連携しながらスピード感を持って取り組んでいきたい。まちに何をいれていくかが重要な要素なので、今後とも皆さんの意見を集約する形で取り組んでいきたい。
委員	● 様々な建築物や緑、文化遺跡がある場所で、色々な技術革新や、民間の提案を受けて、跡地の価値を高めるような利活用によりまちづくりをしていきたい。
委員	● ＵＲは南エリアの基盤整備を請け負うことになるが、この協議会の議論や今後作成されるガイドラインを基に、福岡市・九州大学とともにインフラ整備・新しい機能の検討も併せて行っていきたい。
□まとめ	
委員長	● 当面はガイドライン作成に向けての作業が必要である。 ● マネジメントに取り組む上での課題については、事業による収益を確保し、持続可能な組織をつくる仕組みや、活動する拠点の必要性について意見が挙げられた。また、周辺商店街とのつながりを重視すべきということや、人が大事でありお祭りやイベントなど活動と連動した場所づくりを考えていく必要があるなどの意見もあった。 ● 「FUKUOKA Smart EAST」というワードで、世界に向けて発信していく箱崎をつくり上げていく作業も同時に必要である。公共空間、骨格づくりなどスピード感を持って進められるように皆で考えていくことになる。意見の中で特に印象的だったのは軸をどのようにつくり上げていくかであり、十分に検討していかなければならない。歩行者、自転車、自動車、自動運転を含めてどのように盛り込み、新しいまちを形成するか気になるところである。

以上